

第5回 球磨川下流域環境デザイン検討委員会
萩原堤防のデザイン検討について



平成26年1月15日
国土交通省 八代河川国道事務所

1-1. 萩原堤防補強の基本方針

【堤防補強の概要】

萩原堤防が、万が一破堤すると、八代市内に甚大な被害を及ぼす。
このため、治水上、重要度が非常に高い堤防である。
しかし、現在の萩原堤防には、以下の課題がある。

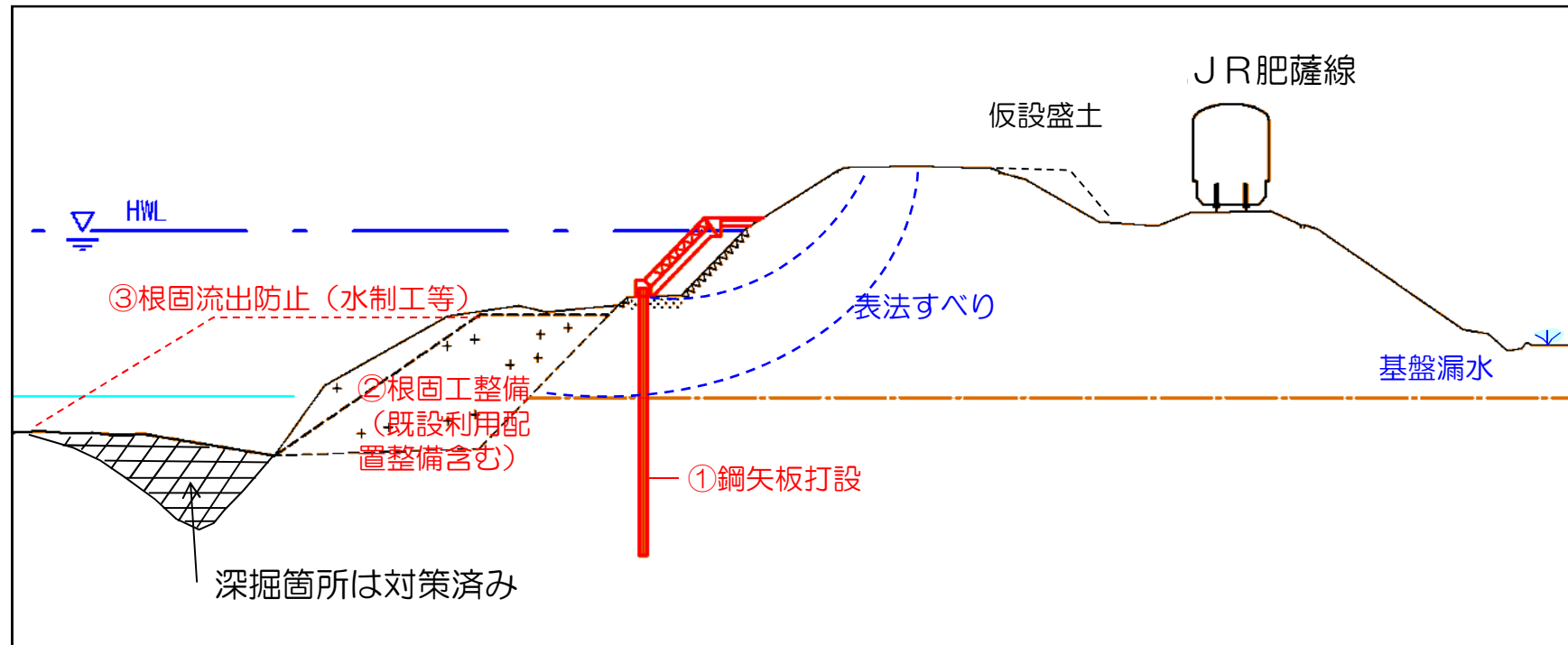
- ①堤防断面の一部不足
- ②堤防表法面のすべりに対する安定性
- ③基盤漏水に伴うパイピング破壊の懸念及び既設護岸の老朽化

そのため、堤体の構造的な課題を解決しつつ、歴史・文化的な変遷、周辺の利活用状況を含め、景観に配慮した検討を行う。石はねについては文化財として保全するだけでなく、実用的な機能復元も含めて検討する。治水上の課題を解決しつつ、歴史・文化、利活用、景観等に配慮した萩原堤防デザイン検討を行う。



1－2. 萩原堤防補強の基本方針

横断計画（案）



ステップ①

- 川表のすべり抑止、断面不足の解消
- ⇒ 矢板による補強対策（既設低水護岸の背面に矢板打設）
盛土及び高水護岸の施工による堤防断面不足の解消

ステップ②

- 堤体安定化（根固めカウンター）
- ⇒ 根固工整備（既設根固ブロックを流用、再配置整備）

ステップ③

- 根固め流失対策 ⇒ 水制工等整備（根固め近傍の流速低減）

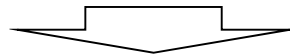
2. 萩原堤防のデザイン検討方針について

今回は地域住民の意見聴取等を実施し、導線、利活用の議論を行い、その意見を踏まえて、萩原堤防のデザインコンセプト(デザインの基本的な考え方)について意見を伺いたい。

- 地域の意見を反映
 - ・地元住民、キーパーソン



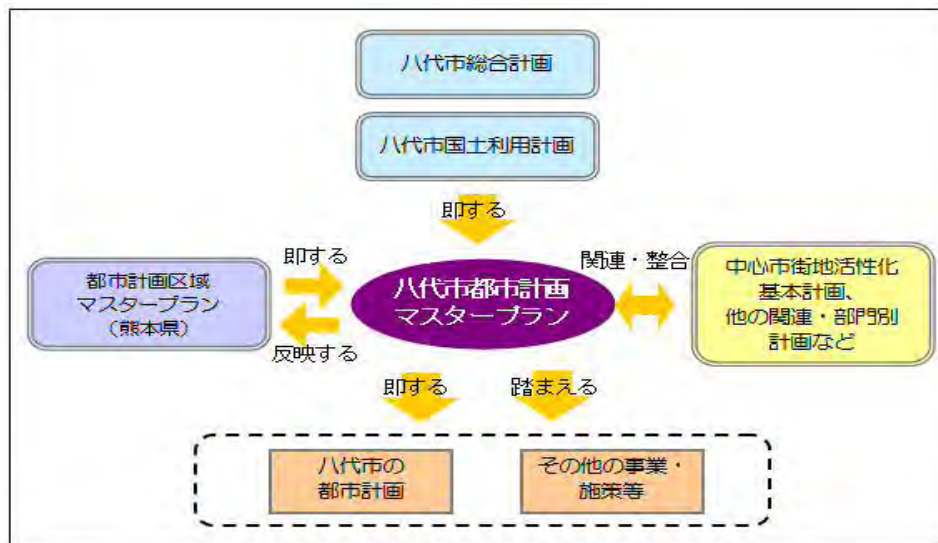
- ゾーニング計画
 - ・利活用計画(散策、イベント等)
 - ・導線計画(車、人、カヌー等水面利用)



- デザイン検討
 - ・デザインコンセプト
 - ・大まかなデザイン(案)
 - ・ディテールの検討・設計(案)
 - ・模型等にて検討

3. 八代市都市計画（マスタープラン）における萩原堤防の位置づけ

「八代市都市計画マスタープラン」は全ての市民が安全で快適に暮らすことができ、住みたい、住み続けたいと思う魅力あるまちづくりを目指して、農林漁業や自然環境と一体となった合理的な土地利用や都市施設の整備等を進める基本方針として平成22年3月に策定されました。



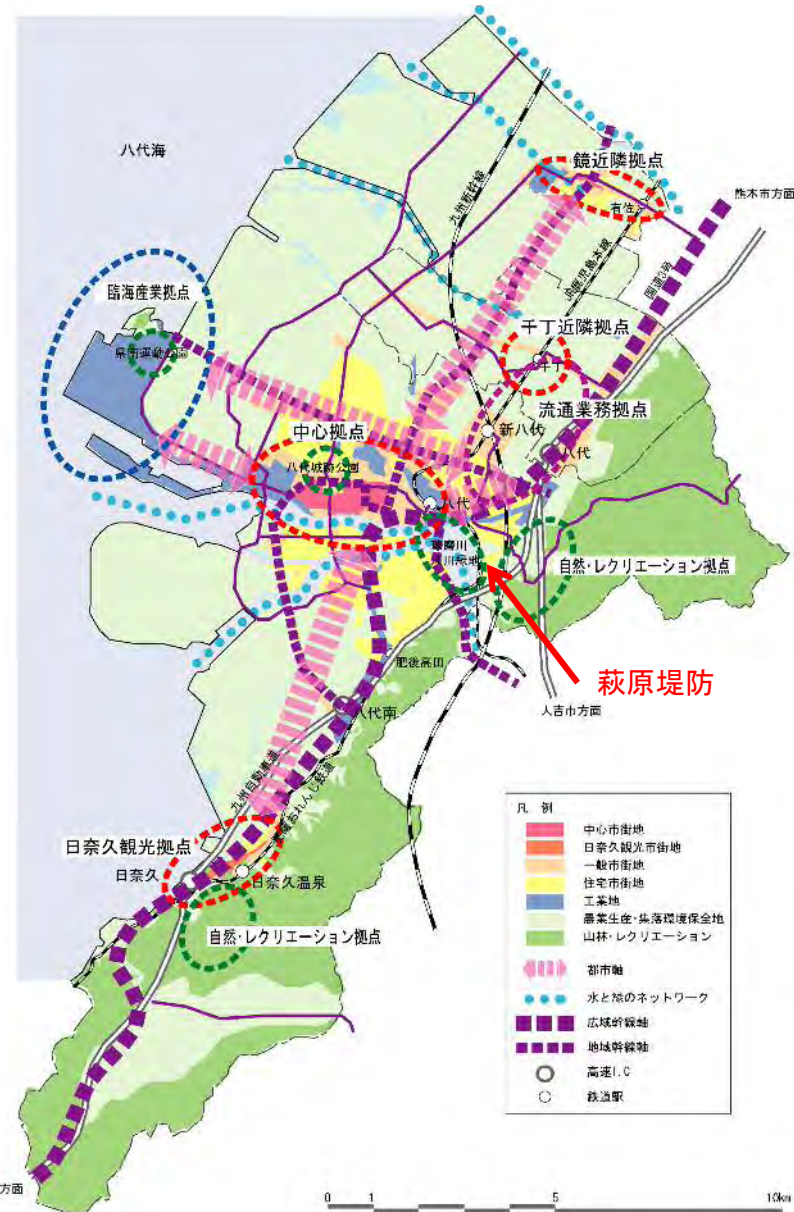
萩原堤防は自然・レクリエーション拠点と位置づけられ、その配置方針と整備方針は次のようになっています。

【配置方針】

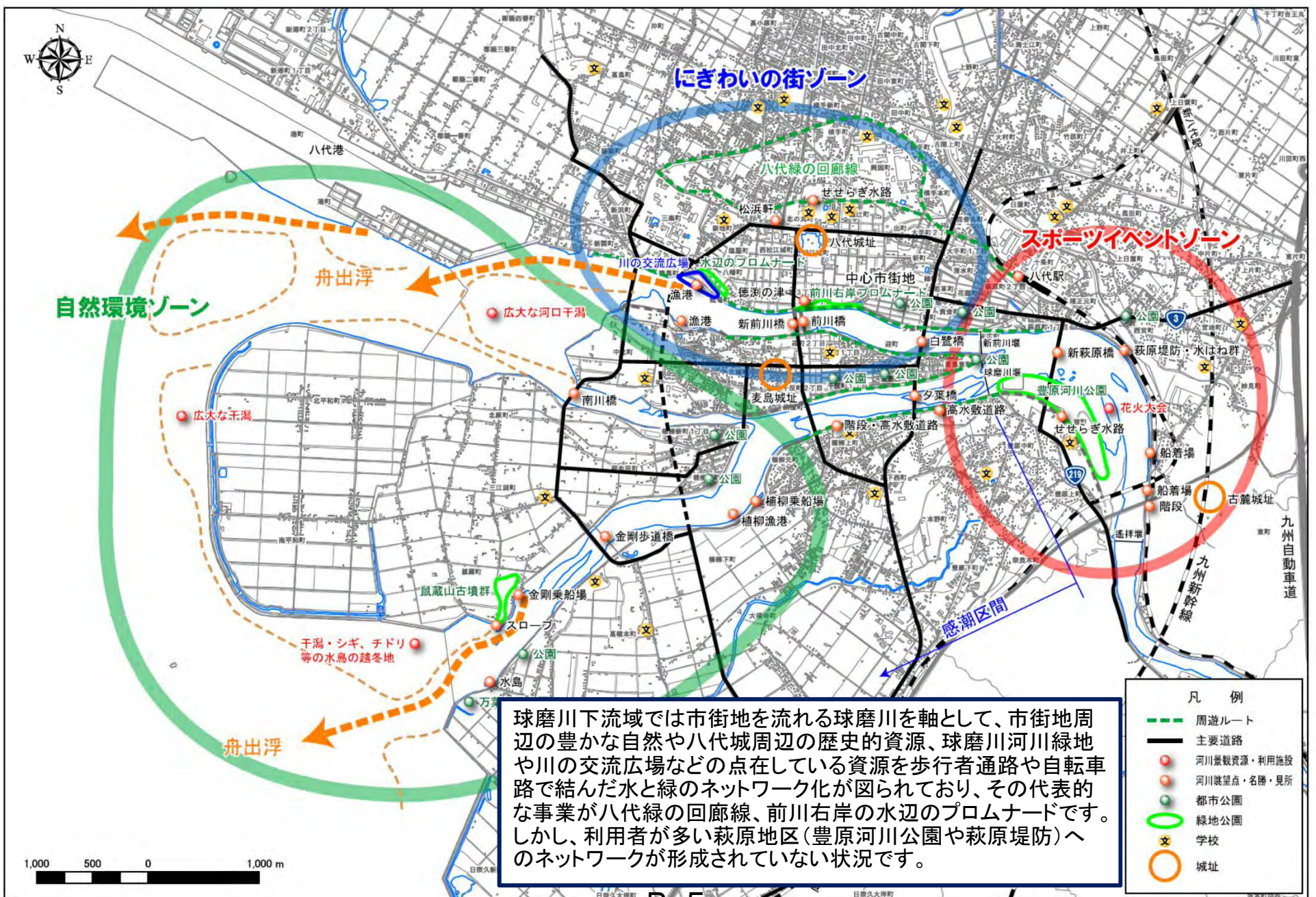
八代城跡公園や球磨川河川緑地、県南運動公園、東部山麓や南部山麓の丘陵地などを自然レクリエーション拠点と位置づけるとともに、ネットワーク化させ、市民の水や緑や歴史に親しむレクリエーション空間の形成を図り、個性と魅力ある景観の形成を図る。

【整備方針】

市街地を流れる球磨川を軸として、市街地周辺の豊かな自然や八代城周辺の歴史的資源、球磨川河川緑地や川の交流広場などの点状に在る資源を歩行者通路や自転車路で結んだ水と緑のネットワークの創出。



4. 萩原堤防を取り巻くネットワーク（現状）



5. 萩原堤防の景観特性（※第3回検討委員会資料抜粋）

• 文化と歴史

- － 萩原堤防は、元和5年(1619)から2年半を費やし、加藤正方が八代城築城の際に完成させたと言われる。
- － 洪水から堤防を護るための「石はね」が現存する。
- － 松井直之の時代に、堤防に松が植えられ、八代八景に歌われる松堤として、名勝萩原堤と称された。
- － 宝暦5年(1755年)の洪水では萩原堤が破堤し、稲津弥右衛門により改修された。
- － 西南戦争の激戦の地(「宮崎八郎戦没の碑」)でもある。

• 利活用

- － 堤防天端は兼用道路(市道)として利用。通勤通学路や日常の散策やジョギング等に利用。
- － 秋の「やつしろ全国花火競技大会」では、約30万人に及ぶ観客が訪れる。萩原堤防は全面通行止めとなり観覧場として開放される。
- － 5月開催の「九州国際スリーデーマーチ」のコースとして利用され、イベント時には多くの観光客が訪れる。

• 景観

- － 背後に八代駅と製紙工業が立地し、堤防沿にはJR肥薩線、肥薩おれんじ鉄道、国道3号、高速自動車道路、新幹線が併設しており、公共交通機関が集中し、交通アクセスも良好。
- － 対岸の河川公園と、広大な水面、山々の緑を背景とした優れた景観を有している。



6. 萩原堤防に対する住民の思い

下流域デザインワークショップの開催

第3回委員会にて利活用等に関する地元住民の意見を広く収集し、デザイン検討に反映するよう提案されたことを受けて、左右岸3地区の地元住民との意見交換会を開催。

主な地元の意見

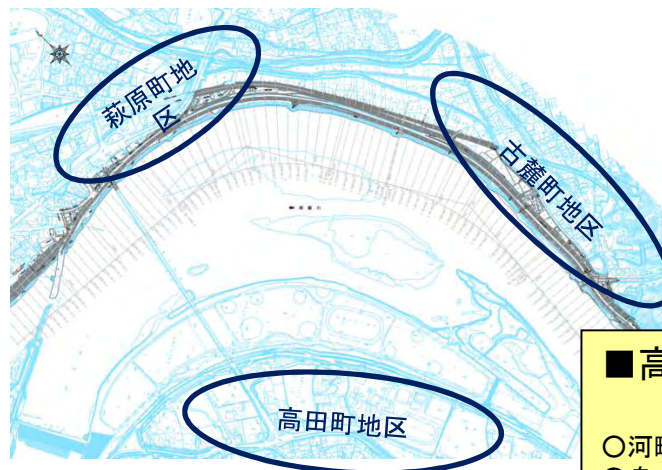
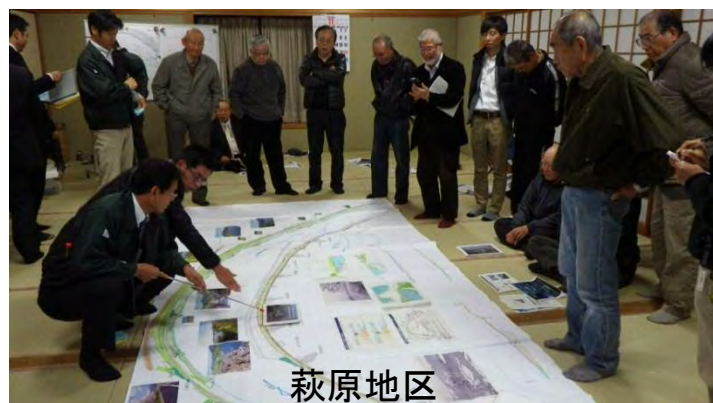
- ・バリアフリーなスロープ、フラットな散策路(高水敷)の確保
- ・並木の復元(松、桜、ポプラ)
- ・根固工上の河畔林(ヤナギ類)の伐採による眺望の確保
- ・全国花火競技大会等に配慮した広幅階段の確保

■萩原町地区(右岸)の主な意見[H25.11.28 15名]

- 堤防天端の川裏側にかつてのような並木(桜、松、ハゼ、ポプラ)がほしい。
- 高水敷を整備し、散策路を確保してほしい。
- 河畔林によって花火が見えない。
- 花火競技大会のときに観覧席になるような施設がほしい。
- バリアフリーに配慮した堤防から降りるスロープがほしい。
- 堤防表法は緩傾斜の1枚法堤防がよい。
- 石はねの風景はあった方がよい。

■古麓町地区(右岸)の主な意見[H25.12.10 13名]

- 根固工の空隙は魚類の生息環境として残してほしい。
- 河畔林は魚類の生息環境として必要。
- ヤナギによって花火が見えないため伐採した方がよい。
- 竹林があって水辺に近づけない。
- 水辺で魚釣りができるようにしてほしい。
- 堤防天端のどこからでもアクセスできる緩傾斜堤防にしてほしい。
- 治水上の安全性を第一としてとにかく丈夫な堤防にしてほしい。
- 右岸側は流速も早いので、子供の水遊びには不適である。
- 花火の観覧場所をつくってほしい。
- 堤防天端の川側にガードレールを設置してほしい。
- 堤防天端道路に街灯を設置してほしい。



■高田町地区(左岸)の主な意見 [H25.12.4 40名]

- 河畔の竹林は部分的に残してほしい。
- 舟の係留場所が左右岸に1箇所づつほしい。

7. デザインコンセプト（デザインの基本的な考え方）

■デザインコンセプト(デザインする上での基本的な考え方)

- ・約400年にわたり八代を洪水から守るとともにかつて名勝“萩原堤”とよばれた景観をふまえ、洪水に対する安全・安心感や歴史・文化を感じる市民の憩いの場としての河川空間の復元・創出をはかる。
- ・「おおらかな」「雄大な」「広々とした大河川」の景観の特徴を活かしたデザインとする。
- ・現存する景観資源（石はね、大銀杏、桜並木等）との調和をはかるデザインとする。
 - ＜堤防のデザイン＞
 - ・既存の堤防形状を活かすと共に緩やかな堤防法面を基本デザインとする。
 - ・背後地の制約条件によりと法覆工となる場合には石積構造とする。
 - ＜護岸等のデザイン＞
 - ・自然石によるデザインを基本とする。
 - ・ハネ等の既存石積みデザインとの整合を図る。
- ・利用者の安全確保のデザイン
 - 平常時やイベント（特に全国花火競技大会）に応じたデザインとする。
 - （親水に対するメリハリをつける。）

8-1. 萩原堤防のゾーニング及び導線計画（案）

ゾーニング計画（案）

ゾーニング計画のポイント

- ・ 既存の計画（八代市都市計画マスタープラン）や、日常利用の主体となる地域住民の声を反映し、利用実態と利用ニーズを踏まえたゾーニング計画を行う。
- ・ 河川環境として保全すべき“保全ゾーン”と利用を促進する“整備ゾーン”に区分する。

◎保全・再生ゾーン

- ・ 既存の景観と河畔林を適正に管理する。
- ・ 瀬の再生を含め、自然環境空間を形成する。

◎整備ゾーン

- ・ 歴史、文化を感じる空間を形成する。
- ・ 水辺へのアクセス、親水性の向上をはかる
- ・ 積極的に人を近づける空間を形成する。（ただし、水域には近づけないようにする）

◇整備ゾーンにおける拠点区分：

景観資源と地域の意見を反映、拠点間の周遊性、ネットワークに配慮

- ・ **拠点-1**（大銀杏、桜並木、記念碑、天神ハネ、丸ハネ、花火競技大会）
 - － 現存する景観資源（石はね、大銀杏、桜並木等）を活かすデザイン
 - － バリアフリーに配慮したスロープ
- ・ **拠点-2**（大ハネ、花火競技大会）
 - － 現存する景観資源（石はね）を活かすデザイン
 - － 松並木の再現（堤防裏法）
 - － 河川眺望できる観覧に留意
- ・ **拠点-3**（山下ハネ、寺ハネ、水源地、花火競技大会）
 - － ポプラ並木や桜並木の再現
 - － バリアフリーに配慮したスロープ

8-2. 萩原堤防のゾーニング及び導線計画（案）

◆拠点-1 (6/800~7/000+100)

- ・松並木や桜並木は裏法側に配置。
- ・歩道と車道を分離し、通勤・通学、散策時の安全性を確保。
- ・高水敷を整備し、散策利用を促す。

●現況写真



●整備ゾーン

歴史・文化を感じる空間を形成する。
水辺へのアクセス、親水性の向上を図る。
積極的に人を近づける空間を形成する。

●保全・再生ゾーン

既存の景観と河畔林を適正に管理する。
瀬の再生を含め、自然環境空間を形成する。

◆拠点-2 (7/200+50~7/400)

- ・水はね群を代表する場所。
- ・昔あった松並木や桜並木の再現。

●現況写真



◆拠点-3 (7/400+200~8/000)

- ・水はね群を代表する場所。
- ・昔あったボラ並木や桜並木の再現。

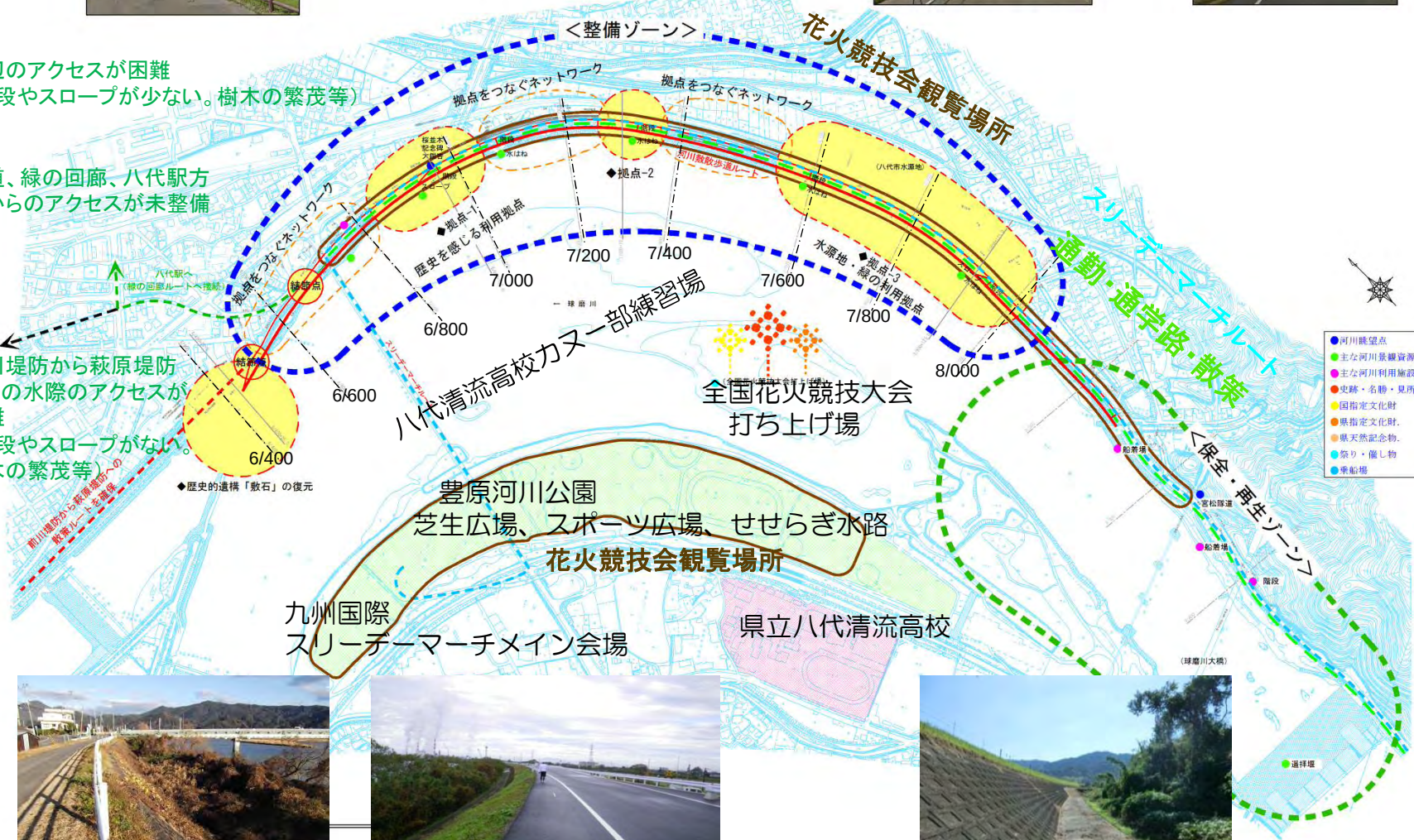
●現況写真



水辺のアクセスが困難
(階段やスロープが少ない。樹木の繁茂等)

国道、緑の回廊、八代駅方面からのアクセスが未整備

前川堤防から萩原堤防までの水際のアクセスが困難
(階段やスロープがない。樹木の繁茂等)



水際のアクセスが困難(新萩原橋)



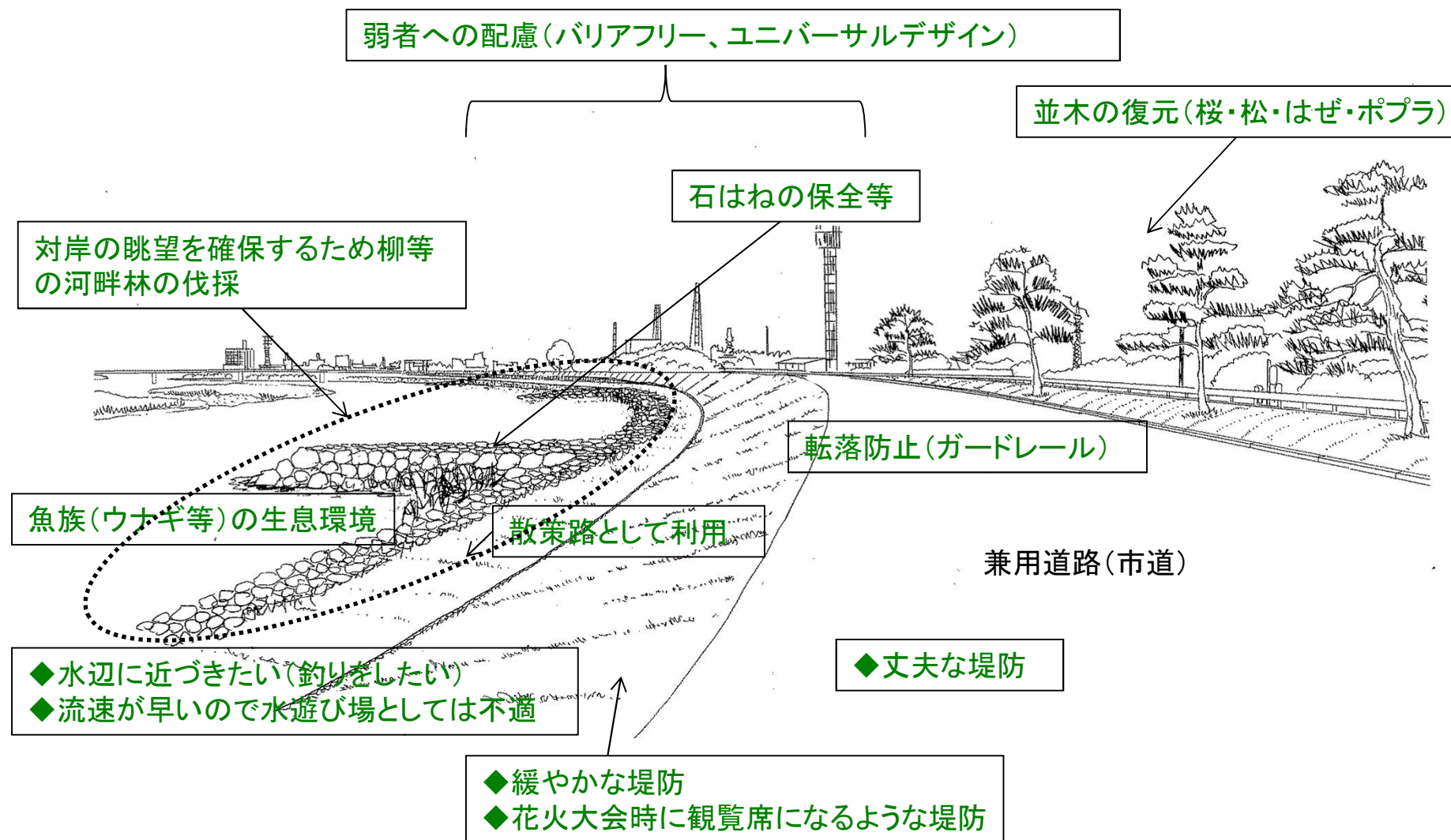
堤防天端の日常的な利用



整備がされていない小段の様子

9-1. 萩原堤防に対する住民の思い

地域住民の意見を絵にしてみました。

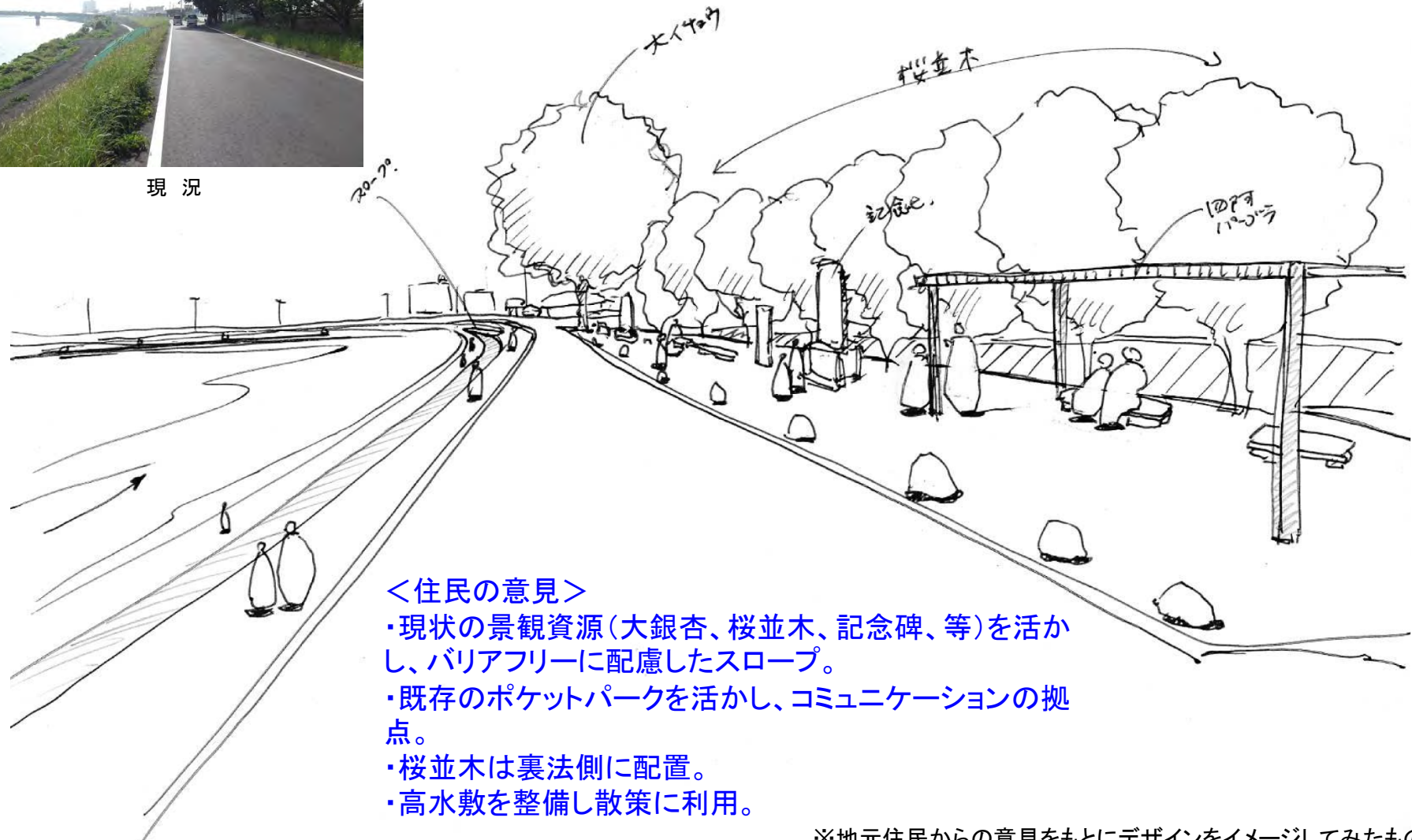


9-2. 萩原堤防に対する住民の思い

拠点-1



現況

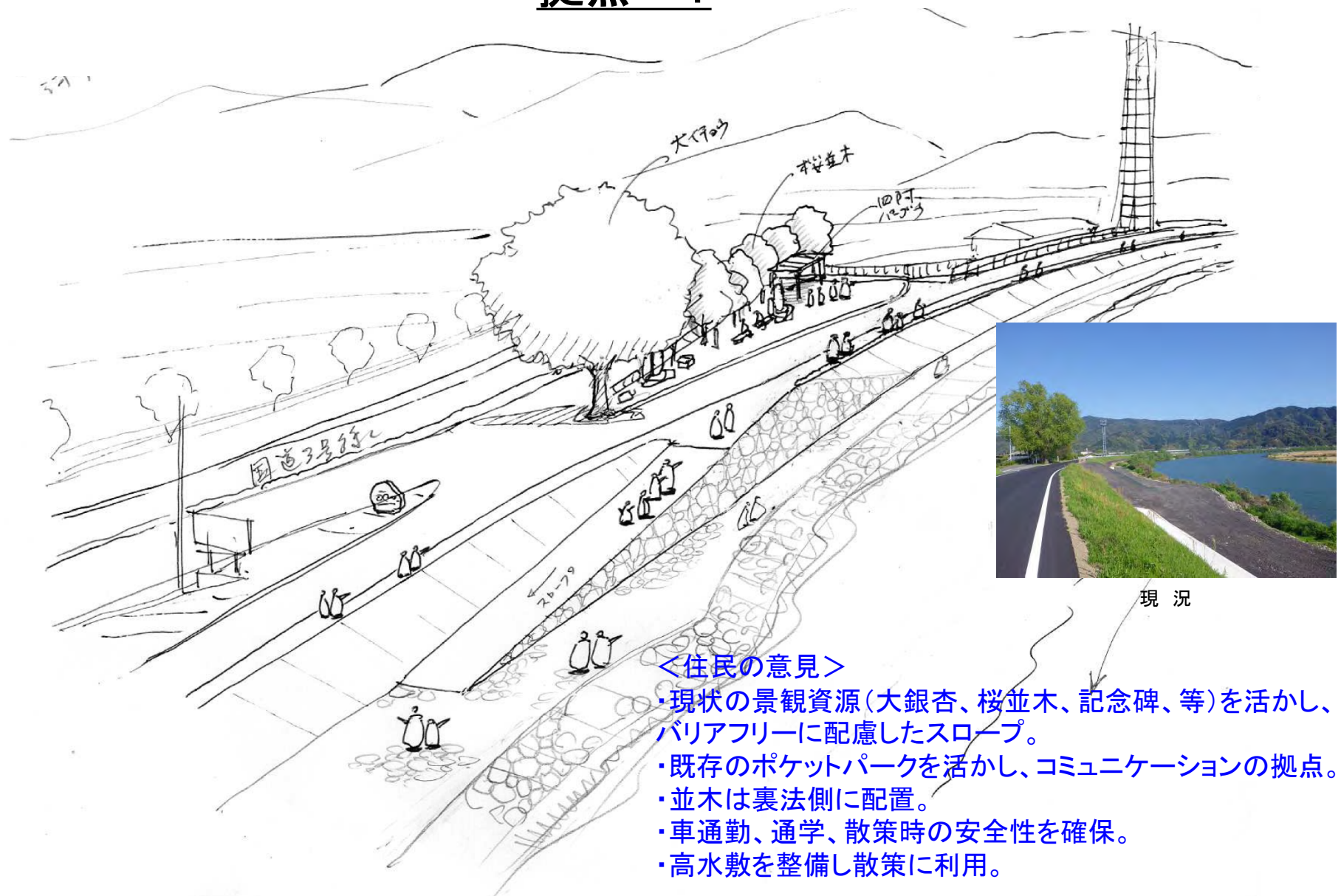


<住民の意見>

- ・現状の景観資源(大銀杏、桜並木、記念碑、等)を活かし、バリアフリーに配慮したスロープ。
- ・既存のポケットパークを活かし、コミュニケーションの拠点。
- ・桜並木は裏法側に配置。
- ・高水敷を整備し散策に利用。

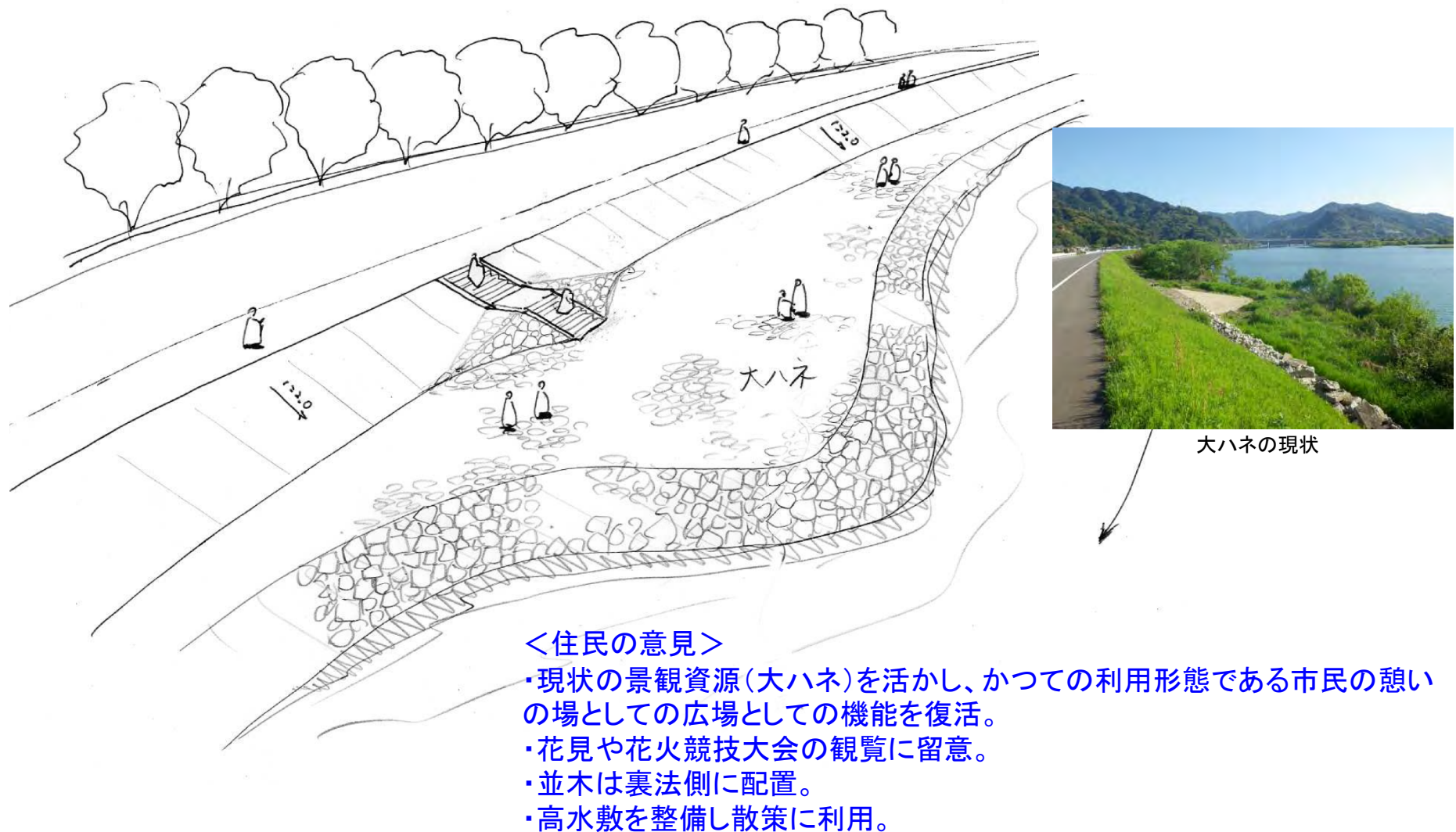
9-3. 萩原堤防に対する住民の思い

拠点-1



9-4. 萩原堤防に対する住民の思い

拠点-2

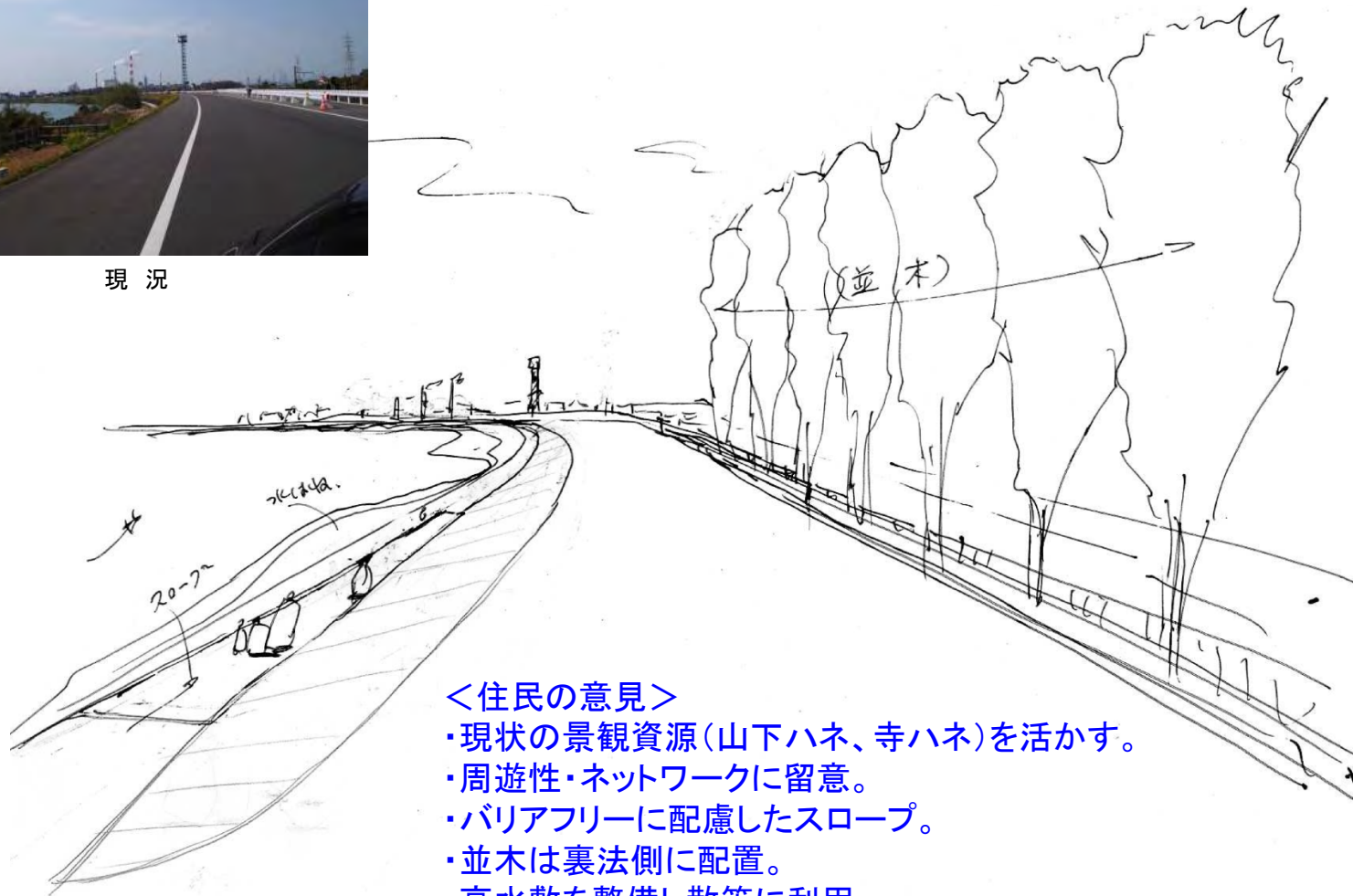


9-5. 萩原堤防に対する住民の思い

拠点-3



現況



<住民の意見>

- ・現状の景観資源(山下ハネ、寺ハネ)を活かす。
- ・周遊性・ネットワークに留意。
- ・バリアフリーに配慮したスロープ。
- ・並木は裏法側に配置。
- ・高水敷を整備し散策に利用。